

- 対象地域  
広島県山県郡北広島町  
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:31人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30  
(R3.4月現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

# 八幡湿原自然再生協議会

## 再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

### 【事務局】

730-8511  
 広島市中区基町10-52  
 広島県自然環境課  
 野生生物グループ内  
 電話:082-513-2933



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤ・マザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

## 活動報告

### 霧ヶ谷湿原の植物観察会

【報告者】西中国山地自然史研究会 和田 秀次

八幡湿原自然再生協議会の構成員である認定NPO法人西中国山地自然史研究会により、9月17日(日)に霧ヶ谷湿原の植物観察会が開かれました。再生事業と八幡湿原の植物への理解を進めることが目的です。参加者は19名で、講師は大竹邦暁さんと和田が担当しました。

芸北 高原の自然館前に集まった参加者は、湿原の最南端の分水嶺まで移動し、上流から下流に向かって観察しました。まず、再生工事前の姿に近い、工事で伐採していない低木林の中を歩きました。カラコギカエデやカンボクが主な樹木です。草原部分に入ると、アケボノソウやツリフネソウ、オタカラコウ、ミゾソバといった植物が咲いていました。第一取水堰の説明版の前で再生工事の概要を説明した後、木道を下って行くと、アカバナやヌマガヤ、マザミ(キセルアザミ)など湿地に特有な植物が観察できました。下流の広場では、元の河川壁面と、改良した部分を比較して見ていただきました。

霧ヶ谷湿原は平成22年3月に工事が完了し、12年半が経過しています。湿地性の植物が増えた一方で、水がうまく回らず、部分的に乾燥化しているところもあります。参加者の感想から、湿原の動植物を見ていただくだけでなく、再生工事や維持管理で行ったことも、しっかりと伝えていく必要があると感じました。

#### 【参加者アンケートより みなさんの印象に残ったもの・感想】

「オタカラコウ」「天気良く、いろいろ見られて良かった」「ツリフネソウが綺麗でした(2)」「アザミの見分け方。総苞片の数がようやくわかりました」「ゲンショウコ」「山の水の流れについて教えてもらい良かった」「湿原の中を歩いたこと。思ったよりたくさん花でした」「秋の花、楽しみました」「植物園にしないために、元の種を使って湿原を回復したところ。努力が素晴らしい、説明がないと分からなかった。情報が素晴らしい。専門家に聞いて良かった」「時間もコースもちょうど良かったと思います」「アケボノソウ(2)」「ツリフネソウとチョウの関係」「湿原の中の枯れ木は、湿地再生の一過程ということ」「元々あった植物で湿原が再生されていて、自然ならではの風景だから、霧ヶ谷湿原は居心地がいいのだと思った」「再生事業の具体的な内容がよくわかって、興味深かった(3)。美しい湿地回復がどうやって行われたのか知ることができて良かった」「数十のそれぞれの草花の生態がよくわかった」「時々きているが、季節による湿原の変化が面白い」「アケボノソウが群生していて綺麗でした。何気なく見ていた植物を詳しく知ることができて楽しかったです」「いろいろな花や木の詳しい話が聞いて楽しかったです。こういう会に参加が初めてだったので感動しました」



観察会のようす



アケボノソウ



オタカラコウ

(植物の写真は、9月11日に霧ヶ谷湿原で撮影したものです)